

北西太平洋サンマ中短期漁況予報

－分布回遊状況解析調査に基づく実用化試験－

1. 今後の見通し

予測期間：2005年11月中旬から12月中旬までの旬別

対象海域：道東海域、三陸海域、常磐海域

対象漁業：さんま棒受網漁業

対象魚群：南下回遊群

※TAC数量に達すると、終漁となる。

1) 道東海域

(1) 来遊量：11月中旬は低位水準となり、減少を続ける。11月下旬以降は断続的となる。

(2) 漁場：11月中旬は、襟裳岬南沖に漁場が残る可能性がある。11月下旬は、漁場が出来ても断続的となり、終漁となる。

2) 三陸海域

(1) 来遊量：11月中旬は、中位水準を持続する。11月下旬から減少傾向となり、12月上旬は低位水準となる。

(2) 漁場：11月中旬は宮古沖～金華山沖まで、漁場が広範囲に形成される。11月下旬以降は、三陸北部で断続的となり、南偏傾向となる。

3) 常磐海域

(1) 来遊量：11月中旬は高位水準であるが、11月下旬以降は減少傾向となる。12月上旬には中位水準となり、12月中旬は低位水準となる。

(2) 漁場：11月中旬～下旬は、請戸沖～鹿島灘に漁場が形成される。12月上旬からは、常磐北部の漁場が散発的となり、12月中旬は、鹿島灘が漁場となる。

2. 予測の概要

海 域		11月中旬	11月下旬	12月上旬	12月中旬
道東海域	来遊量				
	動向	断続的	断続的		
	漁 場	襟裳岬南沖	散発的		
三陸海域	来遊量				
	動向	中位水準	中位減少	低位減少	
	漁 場	宮古沖～ 金華山沖	南偏傾向	南偏傾向	
常磐海域	来遊量				
	動向	高位水準	高位減少	中位減少	低位水準
	漁 場	請戸沖 ～鹿島灘	請戸沖 ～鹿島灘	小名浜沖 ～鹿島灘	鹿島灘

3. 漁況の経過概要

(10月下旬)

1) 道東海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、10月中旬を大幅に下回り、平年・前年を下回る低位水準であった。日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、来遊量は徐々に減少した。

(2) 漁場

漁場は、落石沖から襟裳岬南沖にかけて広範囲に分布した。

落石南南東 20 海里～南 20 海里付近の表面水温 12～14℃では、26 日夜～28 日夜に小型船の漁場となった。規定量漁獲。

霧多布南 30 海里～厚岸大黒島南 25 海里付近の表面水温 12～13℃では、26 日夜と 27 日夜に小型船の漁場となった。規定量漁獲。

釧路南 40 海里～襟裳岬東 35 海里付近の表面水温 12～14℃では、断続的に小型船主体の漁場となった。ほぼ全船、規定量漁獲した。

襟裳岬南 80 海里付近の表面水温 17℃では、24 日夜に大型船が数隻操業。規定量漁獲。

(3) 魚体

30～31cm の大型魚が主体。期後半には、22～28cm 台の小型魚・中型魚も目立つようになってきた。

2) 三陸海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、10月中旬を上回り、平年・前年も上回る高位水準であった。日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、期間を通して高位水準を維持した。

(2) 漁場

黒崎沖～金華山沖にかけて、漁場が広範囲に分布した。

黒崎東南東 40 海里～宮古東 60 海里～釜石東 50 海里～大船渡東 50 海里～気仙沼東 90 海里付近の表面水温 15～19℃では、連日、大型船主体の漁場が数ヶ所に分散して形成された。多くの船が規定量漁獲。15～30トン程度の船もあった。

女川東 80～金華山東 80 海里付近の表面水温 15～18℃では、28 日夜～31 日夜に大型船が 5～20 隻操業。ほぼ全船が規定量漁獲。

(3) 魚体

30～31cm の大型魚が主体。

3) 常磐海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、10月中旬を上回り、前年をやや上回る中位水準であった。日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、期後半にかけて徐々に増加した。

(2) 漁場

24 日夜以降、請戸沖・塩屋埼沖に漁場ができた。

請戸東 40～東南東 50 海里付近の表面水温 17～19℃では、24 日夜以降、大型船主体の漁場となった。25 日夜までは、5～45トン程度の船もあった他は、ほぼ全船が規定量漁獲。

塩屋埼東北東 40 海里付近の表面水温 17～18℃では、25 日夜と 30 日夜に大型船が操業。25 日夜は 10トン程度漁獲。30 日夜は、規定量漁獲。

(3) 魚体

30～31cm の大型魚が主体。